



# 黒御簾音楽



# 常磐津節

# 邦楽 華麗なる技

各ジャンルの「技」に着目して邦楽の楽しみを深める人気シリーズも5年目となりました。第九回は常磐津節、第十回は黒御簾音楽です。ぜひセット券でお求めください。

## 第九回 常磐津節

### 歌・語り・台詞で魅せる江戸の粋

#### 江戸言葉のスパイスを効かせて

三味線音楽を系統別に分けた語り物である「浄瑠璃」の一つ「常磐津節」は、同じく語り物である「義太夫節」が太棹三味線で重量感のある響きを特徴とするのに対し、中棹の明瞭な音色で語りまわす。かつて江戸の義太夫節とも言われ、歯切れ良い言葉が特徴です。

#### 重厚さと軽妙さ

歌舞伎に不可欠な音楽として発展した常磐津節は、歌舞伎音楽として重要な要素を担いつつ、舞踊と結びついたことで、リズムカルで軽妙な面も持ち合わせています。また、太夫が台詞まで含めて

担い、その役割になりきることも魅力の一つです。今回演奏する

「乗合船」では、隅田川の渡し船を宝船に見立て、乗り合わせた白酒売、芸者、大工、俳諧師、女船頭に、芸人である万歳、才蔵を七福神に例えた初春の隅田川付近の洒落一曲です。

江戸の人々が好んだ常磐津節の魅力を存分にお届けします。

## 第十回 黒御簾音楽

### 舞台の表情を整える心映え

#### 御簾の裏側

舞台に向かって左の下手にある衝立の蔭の部屋の格子窓に黒い御簾がかかっていることから、そこで奏される劇中・舞踊の陰囃子を「黒御簾音楽」と呼びます。ここでは、主に幕開から幕切、人物の出入り、しぐさ、台詞に音をつけ

ていきます。唄・三味線・鳴物で構成される曲の総数は、800曲以上とも言われ、組み合わせる場面にあつた情景や心理を描写したり、また、強調する効果を与えたりしています。

#### タイミングを合わせて

通常の囃子で目にする機会が多いのは、太鼓・大鼓・小鼓・笛が代表的ですが、いつもは見えない場所、実際のくらの楽器が使用されているのかも気になる場所です。公演では鼎談・演奏を通して舞台上に楽器を配置してお聴きいただきます。御簾内から舞台をうかがい、演者と息合いははかっていく巧みな技をご堪能ください。

### 邦楽 華麗なる技

第九回 常磐津節

5.29 金 18:30

第十回 黒御簾音楽

7.18 土 14:00

2公演セット券  
7,000円